

平成 26 年度 東京都内湾水生生物調査 2-3 月成魚調査速報

●実施状況

平成 27 年 2 月 25 日と 3 月 9 日の 2 日間で成魚調査を実施した。水質調査を行った 3 月 9 日は、天気は曇時々雨、気温は 9.1～9.9℃、北寄りの風 3.9～4.7m であった。調査当日は中潮で、満潮が 6 時 38 分、干潮が 12 時 56 分であった(東京都港湾局のデータ)。調査当日の透明度は 2.8～3.0m であり、全地点とも、赤潮状態ではなかった。また、底層の DO は、St.25 では 7.2mg/L、St.35 では 7.3 mg/L、St.22 では 7.8mg/L、St.10 では 8.4mg/L であった。全地点でハタテヌメリ等の魚類が確認されたほか、シャコやケブカエンコウガニ等の甲殻類も多く確認された。

	St.25	St.35	St.22	St.10
作業時刻	10:56-11:08	10:22-10:37	9:37-9:59	9:08-9:20
水深(m)	15.3	25.1	14.6	8.9
天候	曇	曇	雨	曇
気温(°C)	9.8	9.2	9.1	9.9
風向/ 風速(m/sec)	N/4.3	N/3.9	NNW/4.7	NNW/4.5
水温(°C)	10.8 12.4	10.7 12.2	10.5 12.2	10.8 11.2
塩分(-)	30.4 33.7	31.4 33.6	31.3 33.5	30.8 32.4
透明度(m)	2.8	3.0	3.0	2.9
DO(mg/L)	9.4 7.2	9.5 7.3	9.6 7.8	9.3 8.4
DO飽和度(%)	103.0 83.5	104.3 84.5	105.5 89.5	101.7 94.4
波浪(m)	0.4	0.5	0.5	0.4
pH(-)	8.0 8.0	8.1 8.0	8.1 8.0	8.1 8.1
水の臭気	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)
備考				

上段:表層 0m 層 下段:海底面上 1m 層

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.25	St.35	St.22	St.10
魚類	ハタテヌメリ(r)	ハタテヌメリ(+) モヨウハゼ(r)	ハタテヌメリ(+)	マゴチ(r)
魚類以外 (目立った種)	トリガイ(r) ダンゴイカ科(r) シャコ(r)	ダンゴイカ科(r) テッポウエビ属(r) フタホシシガニ(r)	トリガイ(+) エビジャコ属(+) イッカククモガニ(+)	サルボウガイ(r) ホンビノスガイ(r) イッカククモガニ(+)
備考	上記の他、オウギゴカイ、クシノハクモヒトデ等が採取された。調査は 2 月 25 日に実施した。	上記の他、チヨノハナガイ、オウギゴカイ等が採取された。調査は 2 月 25 日に実施した。	上記の他、オウギゴカイ、クシノハクモヒトデ等が採取された。調査は 3 月 9 日に実施した。	上記の他、エビジャコ属、スナヒトデ等が採取された。調査は 3 月 9 日に実施した。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

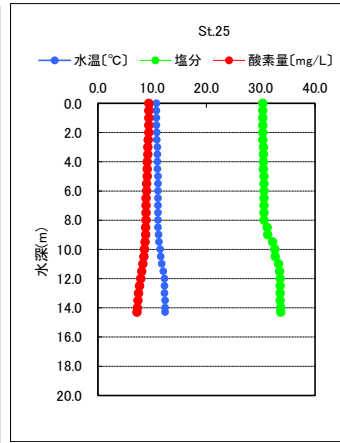
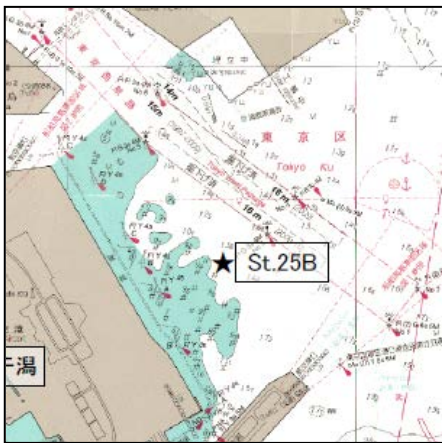
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.25

調査地点位置

水質状況

地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



主な出現種



活発に泳ぎ回らず、海底付近で生活する小型のイカ類。夜行性であり、昼間は砂泥中に潜っている。



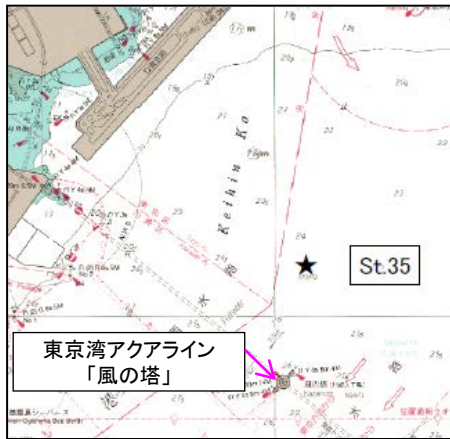
内湾の泥底に生息し、東京湾では漁獲対象となる。湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生によりほとんどが死亡するが、今回は貧酸素水塊の解消後に定着した小型個体が採取された。



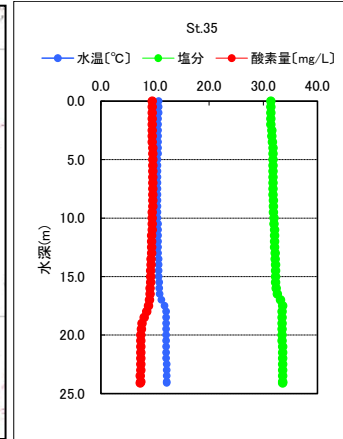
全長 14cm 程になる。春や秋には、湾奥部に分布するが、夏には、湾中央のやや深い場所に分布する。本調査の主要種の1つである。東京湾ではメゴチと呼ばれ、てんぷら等で賞味される。

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



主な出現種



全長 8cm 程になる。体側に小さな青色の斑点が散在する。東京湾では湾奥から湾中央にかけての水深 10~40mほどの砂泥底に生息する。



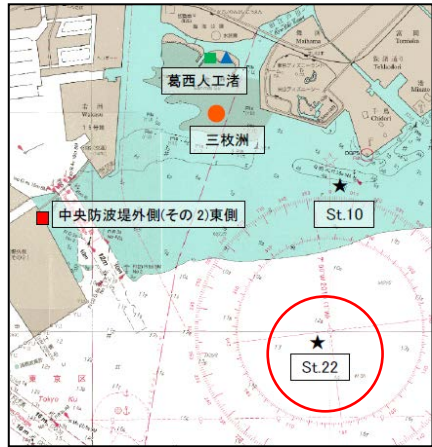
内湾の砂泥底に巣穴をつくって生活する。テッポウエビの仲間は、左右でハサミの大きさが異なる。大きい方のハサミを勢いよく閉じることで、「パチン」という音を出すことが名前の由来となっている。



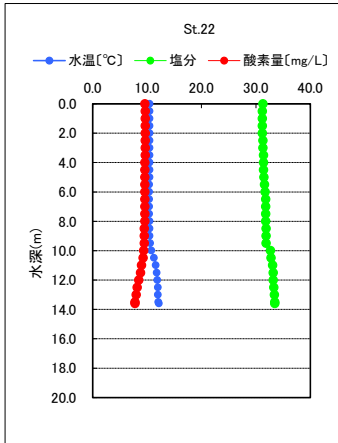
甲幅 3cm 程。水深 10~100m の砂泥底に生息する。東京湾では 2003 年頃から増加。イッカクモガニとならんで、マアナゴやテンジクダイなどの胃内容物として見つかっており、これら魚類の重要な餌となっている。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



地点状況



北側には東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



主な出現種



トリガイ(小型の個体)



シヤコ



イッカクモガニ



エビジャコ属

内湾の砂泥底に生息する。

東京湾では水深 15~30m の泥底にすむ。肉食性で甲殻類、多毛類等を捕えて食べる。産卵期は4~9月であり、貧酸素水塊の解消後に加わり、成長したものと考えられる。

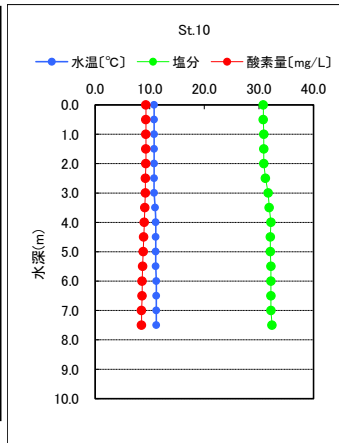
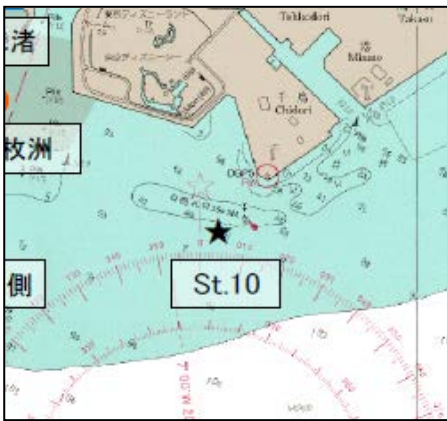
外来種であり、有機汚染の進んだ都市圏の港湾や内湾の砂泥底に多い。周年にわたる幼生の放出と着底後の素早い成長が、貧酸素水塊の発生する東京湾奥で生存できる理由のひとつと考えられている。

調査地点：St.10

調査地点位置

水質状況

地点状況



北側には、東京スカイツリーや東京ディズニーリゾートが見える。写っているのは調査船。

採取試料



主な出現種



マゴチ(若魚)

内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。稚魚は干潟域等の浅所で生活し、成長とともに深い場所へと移動する。砂泥底にひそみ、底生物や小型の魚類を餌としている。



サルボウガイ

内湾奥の干潟から水深約 20m までの砂泥底に生息する。稚貝は、足糸で海藻や基質等に付着して成長し、殻長 12~15mm(発生後 3~6 か月位)で海底生活に移る。



ホンビノスガイ

貧酸素状態などの環境悪化に耐性のある貝。外来種であるが、東京湾ではおなじみの貝となっている。殻の色は本来白っぽいですが、底泥中の硫化物の影響で一部黒っぽくなっている。